

Q10 道徳の時間に体験活動を生かすとは、どういうことですか。

ーポイント10ー

- 様々な体験活動を通して気付いた道徳的価値は、道徳の時間の指導を通して、より確かな道徳的実践力として定着する
- 体験を通して感じたことや感じたことをもとに対話を深めるなど、多様な指導の工夫に努めることが重要

1 体験活動と道徳の時間

子どもたちは、日常の生活や学校の全教育活動の中で様々な体験や体験活動をしています。その中で、多くのことを学び、様々な道徳的な価値に触れ、感じ、考え、心を動かしています。

一方、道徳の時間は、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成する時間であり、児童生徒自らが時と場に応じて望ましい道徳的な行動がとれるような内面的資質を高める時間です。つまり、ねらいとする道徳的価値について児童生徒自身がどのように捉え、どのような葛藤があるのか、また価値を実現することにどのような意味を見いだすことができるのかなど、道徳的価値を自己との関わりにおいて捉える時間です。そのためには、道徳的価値について考えを深めるときに、単なる知的な理解や客観的な把握に終始することなく、自らの体験を通して考えたり感じたりしたことを想起し、それらを基に対話を深めるなど、体験を生かして道徳的価値の意味や大切さなどを考えることが必要です。そうすることにより、道徳的価値は、他人や社会など自分の外から与えられるものではなく、自分の生き方への関心に基づいて内側から育てていくことに気付き、よりよい生き方を主体的に実現していくことにつながります。

2 体験活動の生かし方

道徳の時間で体験活動を生かす方法は、多様に考えられます。

- 体験活動の中で感じたことや考えたことを話合いに生かす
 - 体験活動の内容と似た題材等を生かす
 - 体験における活動の深まりを資料に基づく話合いに意図的に生かす
- など、発達の段階等を考慮して創意工夫ある指導を行うことが大切です。

なお、体験活動を生かす工夫は、あくまでも道徳の時間のねらいを達成すること、道徳の時間の要としての役割を果たすことが前提であり、道徳の時間で直接体験的な体験活動そのものを行うことではないことに留意する必要があります。

体験活動を生かした指導の充実に心掛け、道徳的価値の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒を育てましょう。